

# 波上の放課後

作・木村 繚真

【登場人物】女性6名・男性2名

括弧内は劇中劇②の役名

○高校2年生

紺野 ハルカ (エミコ)

アカリ

マユ

(市民3)

○高校1年生

藤堂 ヒロシ (太一・市民1)

ミキ／姉

楠田／父 (市民2)

ナナコ／母 (志保・母さん)

○その他

植村先生

アナウンス・車掌の声

○人数に余裕があれば、姉・父・母は必ずしも役を兼ねる必要はありません。

幕があく。

舞台には立方体（キヤスター付き）が点在している。  
場所は視聴覚室。新入生歓迎公演の芝居を行っている最中。

1年生たちと植村先生は立方体に座つて見ている。

## 【劇中劇①】

東京へと旅立つ合唱部の仲間を駅で見送るため、4人が駆け込んでくる。

ハルカ あつ、いた！

藤堂 どこ。

ハルカ ほら！

マユ もう電車来るよ。

アカリ エリカーっ！

正面に手を振る4人。

ハルカ 気を付けてねー！

マユ 今度東京遊びに行くからー！

アカリ またみんなで歌おうね、合唱しようね！

マユ 藤堂 ほら、いいなよ。

マユ 藤堂 や、山本さんつ、好きだーつ！

合唱曲『明日へ』の前奏IN。それに被さってアナウンス。

アナウンス まもなく、4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

4人で歌う。

1番が終わると同時に、発車のベルが鳴り響く。  
手を振る4人。音楽・照明FO、観劇者たち、拍手。

拍手は続けたまま転換（立方体を移動させる）。

藤堂が「よーお！」の掛け声と共に全員でひときわ大きく手を叩くと、明。

拍手は一斉にやめる。

舞台はとある空き教室。本日は演劇部の初会合。

藤堂 と、いうわけで、俺が演劇部部長の藤堂だ。飛べない鳥じやないぞー、ドードー！  
ハルカ あんたも絶滅しない。

藤堂 ひどっ！  
マユ でも最近コスタリカのジャングルで撮影されたって。

藤堂 マジで？  
アカリ 俺に行けど！？

藤堂 ハルカ 誰がコスタリカまで行くかよ。

植村 はいはい、1年生を置いてけぼりにしない。

ハルカ ねえねえ、歓迎公演でやつた劇、超おもしろかったでしょ？

藤堂 自分で言うなよ。

ハルカ 歌めっちや練習したんだよ？ 一人音痴な奴がいてさあ、

藤堂 いやもういいよ、次、はい、自己紹介。

藤堂、着席。ハルカ、前に立つ。

ハルカ （咳払い）改めまして、副部長やつてます、紺野ハルカでーす！

藤堂 よつ！  
マユ シツ。

ハルカ まだ先の話ですが、高校演劇には大会があります。うちの部は去年県大会止まりだつたので、今年はもつと上を目指して、みんなと頑張つていきたいです。よろしくお願ひします！

拍手。

植村 藤堂 植村先生。  
ん？

藤堂 今年も台本、よろしくお願ひします。

植村 ハルカ

6月の新人公演が終わるまでには、題材決めようと思つてます。

植村 ごめん。あの、今年はちょっと、書けそうにない。

2年生 えつ。

植村 義理のお父さんがね、ちょっと、介護が必要になつてきて。時間が取れないの。

間。

ハルカ ちようどいいんじやない？

マユ どういうこと？

ハルカ うちは毎年顧問創作でき、なんか頼りすぎてる気がしてた。

アカリ 確かにそれはある。

マユ じゃあ既成台本？

ハルカ いや、書こうよ。

藤堂 誰が。

ハルカ はいっ！ 私書く！

藤堂 大丈夫かお前。

ハルカ 当然じやん！ 私が行かせてあげるよ全国！ とびつきり面白くって深くって、高校演劇史に残る超名作を書くんだから！

音楽。

ハルカ、藤堂を引っ張つて立たせ、ボクシングの真似。

ハルカ シュツ、シュシュツ、シュツ！ ズバーン！

藤堂をノックアウト。額の汗を拭つて正面に向け、

ハルカ 汗と！

アカリとマユ、声を上げて泣きながら抱き合う。

ハルカ、それを見て感動の拍手。顔だけ正面に向け、

ハルカ 泣と……！

アカリとマユとハルカの3人、肩を組む。キラキラした笑顔で夕陽を指さす。

ハルカ 友情と！

藤堂、ハルカの手を取つてひざまづき、手の甲にキス。

ハルカ、乙女な顔を正面に向け、

ハルカ ラブロマンス！（すぐに藤堂の手を払つて）邪魔つ。

ハルカ、急に胸を押さえて床に倒れ込む。マユ、駆け寄つて抱える。

その両脇でアカリと藤堂は天に祈りを捧げる。

ハルカ、正面に顔を向け、

ハルカ 時々シリアルス！

藤堂、歌い始める（讃美歌のような何か）。

ほかの2年生もあわせて一緒に歌いながら去っていく。

ハルカ、去り際にキメ顔。1年生たちは啞然。

植村 大丈夫。来年の今頃、あなたたちもあんなんよ。

顔を見合わせる1年生。

植村 さ、今日の部活はこれでおしまい。明日から基礎練習開始よ。

4つの立方体を横1列に並べ、礼をして去っていく1年生たち。  
ハルカが戻ってきて、

ハルカ ハーツ、初々しいわー！

植村 紺野さん、

ハルカ 先生、私、先生に負けないくらい良い本書きますから！期待しててください！

植村 紺野さん、

ハルカ わかってます。もちろん勝ち負けじゃありません。伝えられる作品、観る人の心を動かせる作品を目指します。

植村 紺野さん、

ハルカ でもやるからには絶対国立劇場に、

植村 ねえ、

植村先生、ハルカの両肩に手を置き、

植村 お薬、ちゃんと飲んでる？

じっと先生の目を見返すハルカ、ゆっくりと視線を落とす。

同時に照明、ハルカのみを照らす。先生は去っていく。

ハルカ、放心したように、ぎこちない動きでポケットから薬を取り出す。

しかし飲み、立方体からブランケットを出して包まり、床で丸まつて眠りにつく。溶暗。

暗闇から声。

姉 ハルカー。遅刻するよー。

溶明。舞台はハルカの部屋。  
薄暗く、重い雰囲気が漂っている。

すすり泣くハルカ。姉、入る。

姉 起きてる？

姉、そばに座り、ハルカの肩に手を添える。

姉 今日は休む？

ハルカ、顔を横に振る。

姉 無理しなくていいよ。

ハルカ ……行く。

ハルカ、ゆっくりと上体を起こし、涙を拭う。

姉 私もそろそろ出るから、一緒に行こう。

姉、ブランケットをたたみ、立方体にしまう。そしてハルカの通学鞄を取り出し、立方体の脇に置く。

姉 支度して。

姉、去る。

ハルカ、そのまま動かない。雨の音F.I.、同時に光がハルカのみを照らす。正面を向いて見上げ、過去を思い出すハルカ、表情が歪む。やがてゆっくりと立ち上がる。

【回想】

とある家のチャイムを押すことを躊躇っているハルカ。意を決してボタンを押す。

母がやってきて、インターフォンの画面に話しかける。

母 どちら様ですか。

ハルカ ……。

母、扉を開ける。

ハルカ ……久しぶり。

母 ……何しに来たの、わざわざ東京まで。

ハルカ ……。  
母 用がないなら帰つて。

ハルカ

母 ハルカ じゃあね。

母 ハルカ 待つて。

母 ハルカ ……。

母 ハルカ 私、高校生になつたよ。成績いいし、演劇部にも入つたよ。

母 ハルカ そう。

母 ハルカ お姉ちゃんなんてもう22歳で、春から社会人だよ、すごくなない？ もうさ、

母 ハルカ あんた……、変わつてないね。

母 ハルカ え？

母 ハルカ 私、扉を閉めて去る。  
立ち尽くすハルカ。

母 ハルカ お母さん。

母 ハルカ 照明戻り、ハルカの部屋。  
姉、入る。

姉 行ける？

姉、ハルカの服の亂れを直す。

姉 行こう。

ハルカ、鞄を持つ。

姉、ハルカの手を引いて歩く。駅ホームの雑踏。

アナウンス 4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

ハルカ お姉ちゃん。

姉 ん？

ハルカ あの人、ちょっと笑つてた。お姉ちゃんは春から社会人だよって、私が言ったとき。  
姉 ……気のせいだよ。

ハルカ、姉の手をほどく。

姉 ……電車、乗ろう。

姉、電車内・座席（1列になつた立方体）に座る。

ハルカは動かない。

発車のベルが鳴り響く。

姉、半身をホームに出してハルカに手を伸ばす。

母 ハルカ。

袖からホイッスルの音、車掌の声。

お客様ー！ 危ないですよー！

姉 ハルカ！

ハルカ、姉の手を掴み、乗る。

動き出す列車。座席に座る2人。

ハルカ、姉の肩に顔を寄せ、声を堪えて泣く。

姉、ハルカの目元を周囲から隠すように身を寄せ、頭を撫でる。

姉 帰ろつか。ね。……ごめんね。

溶暗。

暗闇の中、2年生たちが发声練習をしながら入ってくる。  
明。

アカリ ねえ、

アカリ ん？

アカリ 今日もハルカいなかつた？

アカリ ああ、教室では見てないな。

アカリ どうしたんだろうね。

アカリ 返信も来ないし。

藤堂 まあ、ちょっと体調くずしてるだけって先生が言つてんだからさ、そのうち来るだ  
ろ。

アカリ 冷たいヤツ。

藤堂 紺野はお前に心配させたくないんじやねーの？

アカリ んなこと分かつてるわよ。

藤堂 じやあ詮索すんなよ。

マユ 気になることがあるんだよ。

藤堂 なんだよ。

アカリ (マユと顔を見合わせ) ハルカ、今年に入つてから変じやなかつた?

藤堂 アイツは前から変だろ。

アカリ そうじやなくてさ、

マユ 送別会のとき、過呼吸になつたじやない?

藤堂 ああ。先輩の卒業が寂しいって、めっちゃ泣いてたな。

マユ 私たちつてあんまり3年生と接点なかつたのに、すごい寂しがつてて。

藤堂 それはひとそれぞれなんじやね?

マユ でもハルカって結構ドライなイメージがあつてさ。

アカリ そう、あんまり感情出さないっていうか。

藤堂 まあ、確かに副部長になるつて言つたときは意外だつたけど。

アカリ そうだよ、歓迎公演の稽古のときなんてさ、先輩と言ひ合つてたじやん。私が演出な  
んですから、口出さないでくださいって。  
あれヤバかつたね。

マユ

アカリ 大会の台本書くつて言つたのもそうだけど、全体的にキヤラ変わったと思わない？  
藤堂 んー、でもいま関係あるか？ それ。元気だったわけじやん。

アカリ ……。

アカリ 気になるなら、もう一回先生に訊いてみれば？

藤堂、舞台袖に声をかける。

藤堂 おーい、準備できたかー？ 発声するぞー！

1年生 はーい！

1年生たちが出てくる。藤堂とマユは発声の指導を始める。

アカリ 正面を見つめ、

アカリ ハルカ。

全員ストップ。無音・照明薄暗く。

舞台は教室。植村先生が入る。

植村 はーい、授業やるよー。日直ー。

全員、無機質に席へと移動。ハルカも登校してきて席に向かう。

号令。

植村 気をつけ、礼。  
全員 お願いします。

ハルカ、立方体から教科書を取り出し、開く。

植村 はい、じやあ教科書43ページ、前回の続きから。読んでもらおうかな。今日は5月

24日だから……、

先生、524番はいませんよー。

はいじやあ藤堂くん。

なんで！？

笑う生徒たち。ハルカだけは俯いている。

とめどなく溢れ出てくる涙を拭う。教科書を顔に当て、声なく泣く。  
照明、次第にハルカのみを照らしていき、溶暗。  
暗闇の中、声。

アカリ 新人公演シーン4！ ミキちゃん、よく見て参考にしてね！ よーい、

アカリが手をうつと溶明。

【劇中劇②・新人公演の稽古】

立方体に座ったハルカ（エミコ8歳）、藤堂（太一17歳）、ナナコ（志保17歳）。高校生の2人は、空襲を体験したエミコから話を聞いている。

エミコ

夜中にサイレンが鳴り響いた。わたしは恐ろしくて震えていたよ。だけどその時に空襲はなくて、もう大丈夫だと思って母さんの腕の中で安心して眠った。だけどその2時間後に、B29はこの町を、火の海に変えたんだ。

太一

この町が、火の海に？

エミコ

夜中にさくらんぼが燃えているよ。だけどその時に空襲はなくて、もう大丈夫だと思って母さんの腕の中で安心して眠った。だけどその2時間雨のように降ってきた（立ちあがる）。

志保

空中で花火のよう開いて、

エミコ

雨のように、降ってきた（立ちあがる）。

太一

黒い塊が落ちてきた（立ちあがる）。

エミコ

周りの木々が折れんばかりに、

志保

炎を煽る風が吹いた。

エミコ

周囲に轟く警報音。

エミコ

横一列に並んだアレが、

3人

赤く、光りながら飛んできた。

### 【劇中劇内での回想】

けたたましい警報音と爆音。

市民1

空襲だー！！

人々の叫び声。

エミコ

おかあさん！

母さん

エミコ、

市民1

奴らだ、やつぱりあのビルは本当だつたんだ！（駆け去る）

爆音。

市民2、息を切らして入る。

市民2 何してるの！ はやく逃げないと！

母さん どこへいけば？

市民2 防空壕を掘られたでしょう？ はやく逃げないと焼き殺される！（駆け去る）

エミコ おかあさん、

母さん 離れないで（市民2の後を追う2人）。

爆音。2人の前に市民1が駆け出て倒れこむ。

エミコ きやあ！

市民1 ハア、ハア……あんたら、どこ行くんだ。

母さん 防空壕に、

市民1 よせ。

母さん だけどさつきの人が、

市民1 あそこへいったら蒸し焼きにされる！

母さん そんな……。

市民1 それより川、川へ逃げろ！（母さんの手を引き、駆け出す）

母さん あつ（繋いだ手がほどける）、

エミコ おかあさん！

母さん エミコ！

爆音。爆風で後ろへ倒れるエミコ。

エミコ ……痛い。

市民1と母さんの姿はない。

市民3 がやつてきて、エミコに駆け寄る。

市民3 お嬢ちゃん。どつか痛い？ ここにいたら駄目よ？

エミコ おかあさん……、

市民3 ほら早く。

爆音。

エミコ おかあさんっ！

市民3 こつちへ！

エミコ いやだ！

ふらつきながらも懸命に駆けだすエミコ。

市民3 どこ行くの！（抱き止め）

エミコ 川におかあさんがいる！だから、

激しい地響き。

市民3 行つたらダメよ。川にいたら爆撃目標にされるから。

爆音。

市民3 行こう！

エミコ いや、かあさん、おかあさんーん！！

照明・CO。

アカリが手を叩くと照明CI。

袖からほかの部員たちが出てくる。ハルカ、泣いている。

ミキ 先輩（ティッシュを渡す）。

ハルカ ありがとう（涙を拭いて、近くの立方体に捨てる）。

藤堂 お前やっぱすげーわ。

アカリ どう？ 参考になつた？

ミキ なんか、すごすぎて引きました。

アカリ 大丈夫。恥を捨てれば一皮むける。

藤堂 こいつは恥知らずだからなあ。

マユ （藤堂の襟首を引っ張つて放り投げる）

アカリ ハルカは？ アドバイスとかあれば。

ハルカ ……自分の中にもね、役と気持ちが重なる部分つてあると思うの。それを引き出して、爆発させるといいかも。恥ずかしい気持ちも、一緒に吹き飛ばす。

ミキ 気持ちが、重なる……。

アカリ ちよつと考える時間にしよつか。

ミキ すみません。

アカリ じやあほかにやれるシーンは一つと……、

マユとハルカ、輪から少し離れて、

マユ ハルカ。

ハルカ ん？

マユ 相変わらず、見惚れた。

ハルカ やめてよ。

マユ なんで。すごい良かつたよ。

ハルカ ただの、自己陶酔だから。

マユ 自己陶酔。

ハルカ （頷き）自己愛の塊……、最悪だよ。

マユ ほんとに大丈夫？

ハルカ なにが？

マユ 体調。

ハルカ うん、大丈夫。ほんとに元気だよ。迷惑かけてごめんね。

マユ ううん。ハルカがこうやって見ててくれて助かる。心強いよ。

ハルカ 大会の台本は、ちゃんと書くから。心配しないで。

マユ 無理しないでね。

ハルカ じゃあ、明日しようか、台本会議。

マユ 明日？

ハルカ 善は急げだ。

マユ でも、

アカリ よーし！ 次、シーン6！

軽快な音楽IN・照明薄明り。全員なんとなくコミカルに踊りだす。

ハルカ以外は散りばめられた立方体に座る。ハルカが手を打つと音楽CO。

明。舞台は空き教室。台本会議。

ハルカ と、いうことでー、第1回台本会議ー！ いえーい！ はい、拍手。

1年生は拍手する。

2年生は顔を見合させて首をかしげる。

ハルカ 皆さんご存知の通り、9月には大会があります。そこで、今年は顧問創作ではなく、しっかりと高校生が創作してやろうというわけです！ そもそも高校演劇でなぜ顧問が台本を書き、なぜ演出まで行うのか、それらは本当に高校生の望み通りなのか、ほかの作品と同列に評価されるべきなのだろうかなどなど常々疑問を抱いておりましたワタクシ紺野ハルカ。ここでいつちょ一石を投じたいと思うわけでしてー、

アカリ あのー！

ハルカ なんでしょう。

アカリ 本題に入ろう。ちょっと、いろいろ怖いですっ。

ハルカ だよね。ハイじやあ端折つてー、今年の題材、みんな何がいーい？

楠田 はい（拳手）。

楠田 お、いいねクッスンこと楠田くん！

楠田 僕は、原発について考えたいです。原発というか、エネルギーについてです。

楠田 なんで？

楠田 原子力や火力以外にも、日本には安全でクリーンな発電の選択肢があるのに、利権とかが絡んで、積極的に開発してこなかつたっていうか、その、地球環境に優しくとか言ってるけども、結局それは建前で、協定とか、SDGsとか、そういう国際的な枠組みが作られたから流れに乗るしかなくなつて、仕方なくやつてみせてるだけなんじやないかって、感じてます、僕は。

ハルカ それで？

楠田 え？

ハルカ 何をどう訴えたいの？

楠田 それは……、

ハルカ 原発の危うさを描かなきやいけない。生きてる以上みんな当事者。でも、実感として、その危険をどれだけ分かつてる？ 遠くにいる私たちが、一体どれだけ正確な作品を作れるんだろうね。中途半端にやつたら、人を傷つけるだけだよね。

待て。議論はあとにしよう。

大事なことじやん。

藤堂 先に進まないし、1年生が発言しにくくなるだろ。まずは希望を出し合おう。

ハルカ じゃあ、ほかに意見ある人。

1年生、俯いている。

マユ 私は海外の子どもと、日本の子どもについて考へてゐる。10人に1人は学校に通えてなくて、1億6000万人の子どもたちが働いてゐるんだって。貝を売つたり、ゴミを漁つたり、私たちよりずっと小さな子たちが、生きるために生きてる。女の子は結婚させられて、大人のいいなり。私たちの生活がどれだけ贅沢か、私たちに本当に必要なことはなんなのか、問題提起したい。

ハルカ 何が必要なの?

マユ 謙虚さ。

アカリ さつきの、クツスンの言つてたことにも繋がるね。世の中便利になつたけど、自然是壊すし人も殺すし、格差は広がっていく。欲があるから問題だらけ。

藤堂 ゴミを拾つて歩く子どもを廣告とかで見るけどさ、あんなことになるなら子ども作るなつて思わない?

マユ それはそうだけど、根本的に変えていかなきやいけない。私たちが当たり前だと思つてゐる、例えば蛇口から水が出たり、綺麗な道路を歩けたり、電気が使えること、学校で勉強できること、働く場所があることとか、司法制度が機能すること、そういう基本的な環境が整わないと、貧しさや人権意識は変わつていかない。だからまずは井戸を作つたりとか、そんな技術を伝えるために、ほかの国からの援助が必要で、

ハルカ それは、じゃあ、いまの私たちにできることつてなんだろう。

マユ 募金とか、使わなくなつたものを寄付するとかしかできないけどさ、もつと直接支援できるように、私は将来NGOで働きたい。

アカリ そういうえば、去年キャンプ行つてたよね。

ミキ キャンプ?

アカリ なんだつけ。

マユ ワークキャンプ。海外でボランティアするの。

ナナコ かつこいい。

アカリ 国際派だわー。

藤堂 なんか意識高いなお前ら。

ハルカ じゃあ、一旦次。ほかに、ミキちゃんとナナコ、なにがある?

ミキ 私は、家族ものがいいなつて、思いました。

アカリ あー。

ミキ なんか、家族つていると面倒くさいけど、いないといないで心細いっていうか。

マユ うち、父親が単身赴任してるとんですよ。

アカリ そうなんだ。

藤堂 なるほどなー。結構書きやすいんじやね?

ハルカ ナナコンは?

ナナコ 私は、S、F?

2年生 出たー。

マユ え、ごめんなさい。

ナナコ ちなみにどういうSF?

マユ えっと、ETとか、AIとか。

藤堂 SFETAI!

アカリ あんたET役ね。

藤堂 トモダチ、イバーイ。

人差し指をアカリに向ける藤堂。  
アカリ、掴んでひねり上げる。

ハルカ ハイほかに、何か希望ある人いる?

藤堂 はい! 僕もミキティの案に賛成でーす。

アカリ あんたの思う家族ものとは?

藤堂 俺も自分のことなんだけさ、うちのじいちゃん超かっこいいんだよ。

マユ どんなところが?

藤堂 昔近所でお金に困ってる人がいたらしくて、その人の田んぼを買い取つてあげたんだつて。

アカリ たんぼを?

藤堂 すごいだろ? なんでそんなお金があつたかつていうと、じいちゃん1人で会社立ち上げて、家の隣の仕事場で1人で作業して1人で会社まわしてたんだつて。

マユ すごいね。

藤堂 でつかい家建ててさ、雨漏りがあろうもんなら裁判よ裁判。頑固一徹最強なんだよ。

アカリ それやるとしてもアンタがおじいちゃん役とは決まつてないからね。

藤堂、楠田を睨む。

マユ やめなさい(藤堂の襟首を引っ張る)

ハルカ クツスン負けるな、睨みつけろ!

楠田 は、はい!

楠田、がんばって藤堂を睨む。

藤堂 シヤアー!!

楠田 ひいいい。

マユ やめろ。

マユに放り投げられる藤堂、床に転がる。

ハルカ じゃあ、こんなもんかな?

アカリ どう? どれか書けそうな感じする?

ハルカ とりあえず多数決でどれかに絞つてさ、できそなならエチュードやろうよ。

マユ うん、それいいかも。

ハルカ じやあ整理すると、エネルギー、日本と海外の子ども、家族、S.F。

藤堂 その4つの中から1つだけ手を挙げよう。いいか? 目を瞑つて。

アカリ あんたも瞑りなさいよ?

藤堂 はい。

ハルカ はい、じやあエネルギーについてがいいと思う人。

楠田が手を挙げる。

ハルカ 子どもについて。

マユとアカリが手を挙げる。

ハルカ 家族について

藤堂 はいっ！

ミキと藤堂が手を挙げる。

ハルカ SF。

ナナコが手を挙げる。

ハルカ はあい、いいよ。

藤堂 さあさあ、どうですか。

ハルカ エネルギー1、子ども2、家族2、SF1。

藤堂 おー。

マユ ん？ 一人足りない。

アカリ 誰。

ハルカ あ、私だ。

アカリ どうする？

マユ 子どもと家族つて繋げられそうじやない？

ハルカ ああそうだね。

アカリ エネルギー問題もさ、人間の未来に関わることだから、家族にとつても大事だよね。

全員 (頷く)

マユ SFもさ、なんとか入れこもつか。

アカリ そだね。

藤堂 じゃあ題材は、

ハルカ 家族つてことで、OK？

藤堂 拍手！

全員、拍手。

ハルカ エチュードやるよー！

全員 はーい！

全員立ち上がり、照明薄明かり。同時にリズムのよい音楽IN。

各自、定位置へ移動。

ハルカは舞台前方・端の辺りに置かれた立方体に正面を向いて座る。  
藤堂と楠田は各々立方体の上に立つ。その他の人は立方体に座つて2人を見る。

【エチュード①】

楠田  
おじいちゃん！

おじいちゃん！

明。発せられた言葉を聴きつつ、ハルカはパソコン画面に向かつて台本を書く動作。

どうしたあ！

ツバメさん、落つこちてた。

おじいちゃん！

どうした?

よおし、おじいちゃんが殺

鍛える？

ワシツル、  
ワシツル。

もつと腰を入れて！

ハハハ!  
フンツル、フンツル!!

じいちゃん！

三  
三

なに？

シイサ、人を告白する一言、方の口に傳へておけ。

•  
•  
•  
•  
•○

万ヤニセレル人には  
見る目が無か  
てたんた

とにかく、お前は立派な男だ。だから泣くな。

立派しないし

立派さ 強いたゞ一人を気遣う優しさを持つてる 太良くんにヒンタされてる友だちを助けてあげた。勇気を出して、好きな女性に告白できた。立派じやないか。

……じいちゃん。

じいちゃんが、父ちやんだつたら良かつたな。

ヒロシは  
自慢の孫だよ

2人、微笑み合う。

ミキ 立方体に立ち 橿田の背後から言葉をかける

お父さんつ！

楠田、振り向く。

三十一

藤堂、立方体に座る。ここでアカリも立方体の上に立つ。

【エチユード②】

楠田  
ミキ

なんでそんなにクサイの！

汗か？（腋のにおいをかぐ）

知らないけど近づかないで！（ふいつと楠田に背を向け）お母さん！

どうしたの。

ミキ 洗濯物、お父さんのと一緒にしないで！

アカリ あらあら。

ミキ なに。

アカリ お年頃ねえ。

ミキ だつてなんか汚いんだもん。お風呂のお湯には垢だらけ、トイレのドアは開けっ放し。玄関に行くだけで靴の臭いがブンブン。オエー。

アカリ お父さんも、そういうお年頃なのよ。

ミキ 加齢臭？

アカリ それもあるし、仕事で疲れてるのよ。

ミキ そうかもしれないけど、たまに早く帰ってきたかと思えば、だらだらしてばっかり。

アカリ もっと構つて欲しいんだ？

ミキ はあ？ 違う、そんなわけないじやん！（ふいつとアカリに背を向ける）

楠田  
ミキ おーい。なあ、ほら、面白い映画やってるぞ。

楠田  
ミキ それ、前もやつてた。

あ、やっぱり？ どつかで観たことがあるなーって思つたんだよなあ。でも、面白いよな（ミキに微笑みかける）。

楠田  
ミキ すぐenticheに向き直り、映画に夢中になる楠田。

その様子を見つめるミキ。

ミキ （溜息）……お父さんにしては、見る目あるじやん。

ミキと楠田、立方体に腰を下ろし、一緒に映画を楽しむ。  
その様子を見つめて微笑むアカリ。

マユ、立方体の上に立つ。裸足。アカリはスマホをいじり始める。

【エチユード③】

ハルカ  
アカリ きょうだいは何人ですか？

ハルカ  
アカリ ひとりっ子！

マユ  
8人です。

ハルカ  
お仕事は？

ハルカ  
アカリ 私？ してるわけないじやん。

マユ ペットボトルとか、リサイクルできるゴミを集めて、買ってもらつてます。

ハルカ  
どうして？

アカリ だつてアカリまだ中学生だもん！

マユ お父さんはいないし、お母さんは病氣で死にました。おばあちゃんは兄弟の面倒を見るので精一杯なので、私やお兄ちゃんが働きます。

ハルカ 学校はどう？

アカリ ねむい、だるい、めんどい。

マユ 行きたい。前は、友だちとサッカーしたり、勉強も、楽しかった。

ハルカ 将来の夢は？

アカリ お嫁さん！

マユ (照れくさそうに) 学校の、先生。

ハルカ いつ結婚したい？

アカリ えー、若いうちがいいな、23歳とか？

マユ お姉ちゃんは14歳で結婚しました。私も、たぶんそなります。

アカリ 14？ は？ やばくない？

マユ (下を向いてしまう)

アカリ 好きでもない奴と結婚させられるの？ ありえない？ 学校にも行つてないと

マユ か。なにそれ、何なの？ ねえ、おかしい。絶対おかしいよそれ。

マユ ……(悲しい苦笑)。

アカリ なんで、笑つてんのよ……。

マユ、ごみを拾い始める。アカリ、その様子を苦しそうに見る。スマホをしまい、腕まくりをして、一緒にごみを拾い始める。

その姿を見て微笑むマユ。懸命にゴミ拾いをするアカリ。

そのまま2人、座る。疲れたが、爽やかな笑顔で微笑みを交わす。

ナナコ、立方体の上に立つ。

【エチュード？】

ナナコ ハルカ。

ハルカ 声に驚き立ちあがる。

ナナコ ばいばい。

ハルカ ……待つて、待つてよ。

ハルカ、立方体の上に立つ。

ハルカ どこ行くの？ なんで？ あたし、悪い子だった？ ……もう、好き嫌いしない。わがまま言わない！ 齒だつて磨くから！ だから……、行かないでえ……！

照明、ハルカのみを照らす。

ハルカ 嫌だあ！

暗闇から、

ナナコ あんたはここにいなさい！！

怯え、縮こまるハルカ。

ハルカ なんですよ……、私が何したっていうの……。なんなの、なんなんだよ！！

ハルカ、ゆらゆらと立方体に座り直し、激烈に台本を書き進めていく。  
溶暗。

アカリが手を打つと同時に明。

アカリ はーい、集まつてー。

全員、アカリのもとへ集まる。

アカリ 新人公演、初めての通し稽古どうだった？

楠田 疲れました。

藤堂 内容が内容だしな。

ハルカ いい機会だよ。文化週間かなんか知らないけど、校長に頼まれなかつたら戦時中の話はやんないでしようちら。

藤堂 まあな。

ハルカ おかげで全校生徒に観てもらえるし！

マユ それはラッキーだよね。

ミキ 緊張しますー。

ハルカ 大丈夫大丈夫ー！

アカリ ミキちゃんよりあんたが心配だよ。

ハルカ なんで。

アカリ 目の下クマできてるし、テンションおかしいよ。

ハルカ どっこがー！

マユ 大会の台本さ、うちらに回してくれてもいいからね？  
もう骨組みはできるから！ 安心して。大船に乗つたつもりでいていいから。

ハルカ 全国、いや世界一獲つちやう勢いだよマジで！ 泣けて笑えて考えさせられる、秀逸な作品よ！ 小説も出そうかなって思つてさ、出版社にも連絡したのよ。そしたら「まず完成してから応募して下さい」だつて！ バカよねー？ 先見の明がないつてい

うか、あれは大成しないね。成功するにはリスクを恐れたらいけないでしょ。あと、ハイハイ！ 終了。ダメ出しするから。いい？

アカリ あ、じゃあ私からアカリにダメ出し。

ハルカ アカリ

ハルカ 表面的なダメ出しが多くなる。相手が1年生とはいえ、もっと内面から作っていく方法を示していくかなきや。見え方とか聞こえ方だけ整えたつて中身が、感情がからつぽなのは見透かされちゃう。私たちは偽物じゃなくて本物にならなきや。作品と私たちの日常生活は地続きなの。手掛りは普段の生活の中にたくさんあるから、それと役の人生を繋げて、心から気付けるようなことを言つていかないと駄目。もうこの際だからみんなに言うね。楠田くん、

楠田 はい。

声が小さい滑舌悪い、特にイ段が壊滅的。  
すみません……、

楠田 楠田 ハルカ 普段からね、気をつけよう。

楠田 ハルカ 声出してきな。

楠田 ハルカ はい。

楠田 ハルカ あ、はい。

楠田 戸惑いながら駆け去る。

ハルカ ナナコ。

ナナコ はい。

ハルカ 演技くさい。やつてます感がすごいの。普段あんなリアクションする？ 客席が遠い  
からある程度大きく見せることは必要だけど、ミュージカルじゃないんだからさ。緊張  
するのは分かるけど、顔も体も動きが硬いから、なお客さら取つて付けた感が増して悪目  
立ちしてる。もっと力抜いたほうがいい。ってかそのへんさ、演出としてはどうなの？

特に掛け合いのシーンなんてさ、すごいテンポ悪いし観てて不自然。ってか、ミキちゃん。  
はい。

ミキ ハルカ こないだ私がやつたの見てたよね？

ミキ はい……。

ハルカ 全然変わつてない！

マユ ハルカ、ちょっとと言ひ方考えなよ。

ハルカ マユは我が強すぎ。役を自分に寄せちやつてる感じ。型にハめてる。だからいつも  
同じような言い方だつたり、作品の役の感情が伝わつてこない。ペラペラ。

藤堂 おい、お前どうしたんだよ。おかしいぞ。

ハルカ あんただつておかしいじやん。

藤堂 なにが。

ハルカ 相手のセリフ聴いてる？ 自分ひとりでやつてるようになしか見えないんだけど。ぜん  
ぶ予定調和なの。稽古に慣れちゃつたのか知らないけど、ただ自分のセリフを音とし  
て発しててるだけ。もっと相手の言葉を聴いて、リアルな

アカリ もういい！！

ハルカ ……。

アカリ 帰つて。

ハルカ （笑い）なに、どしたの。

アカリ 本気で言つてんの？

ハルカ 何が。え？ 意味わかんないんですけど。  
アカリ 私には私のやり方があるの。それを滅茶苦茶にしないで。

ハルカ は？ あつそ。じゃ馴れ合いでやつてれば。

マユ ハルカ、今日はもう帰つて休んだほうが、  
やめてくんない？ お節介だよ。私いま人生でイツチバン気分がいいの。もうなんでも  
できるんだって感じで、やる気に満ち溢れてるんだ。だからカンボジアに行つて、子どもたちに会つてこようと思つてる。

マユ え？

ハルカ

バスポートも申請したし、お金もなんとかなりそうだから。あ、支援団体のスポンサーにもなったよ。月5000円なら安いもんだって。

ハルカ、マユの両手を握つて、

ハルカ

マユ、本当にありがとうございました。私ようやく目が覚めたんだよ。これまで私は自分大好き人間だった。でもこれからは世のため人のため、世界に貢献することにした。だから私が、ハーバード大学受験する！

アカリ

いい加減にしてよ！！ もう、帰つて！！

アカリ、ハルカに掴みかかる。抵抗するハルカ。ミキは混乱してその場から去る。植村先生がやってきて、

植村

ちよつと、なに、どうしたの。

藤堂

先生止めてください。

植村

ねえちよつと、ほら、2人とも、やめなさいって。

離される2人。

ハルカ

ハイハイ！ わかつたわかつた！ もうバカばかしい。帰る帰る。

ハルカ、去る。泣くアカリ。

溶暗。

明。舞台はハルカの家。ハルカ、紙袋を持って帰宅。

ハルカ ただいまー！

父、入る。

おう、お帰り。

ハルカ お姉ちゃんは？

父 帰つてるよ。

ハルカ ふうん。

父 何買ってきたんだ？

ハルカ 最近、調子どうだ。

父 いいに決まつてんじやん、最高だよ。超気分いい。部活以外は、マジ、超最悪だった。なんかキレられたらし。意味わかんないつつの。マジクソ。なんも分かつてない。

父 みんなに何か言つたのか？

ハルカ は？ 別に言つてないし。普通のことだし。

父 なに。なんなのその顔！

…。

ハルカ

なに。なんなのその顔！

父 いや、別に、

父 ハルカ お父さんまで私のこと邪魔にするわけ？ ねえ。ねえ！ 聞いてんの？！

父 邪魔になんてしてないだろ。

父 ハルカ してんじやん！ してんだろうが！ あ？ なんなの？ マジで意味わかんないから！

ハルカ、立方体の蓋を開け、中に紙袋を叩きつける。ドゴン！ と大きな音。  
自分の部屋に行こうと歩き出す。

父 ハルカ、  
父 ハルカ、うつさい！

向かいから姉がやって来る。立ち止まるハルカ。

姉 おかえり。

ハルカ ……。

着替えてきたら？ ココアでも飲もう。

姉 おかえり。

ハルカ ……。

微笑む姉。ハルカとすれ違ったところで、

ハルカ むかつく。

姉 ……。

ハルカ いつも余裕そうで、なんでも分かつてますみたいな顔して、いい子ぶつて……。

姉 なに、お母さんに気に入られてるからって、そんなに偉いわけ？

ハルカ、やめてよ、なだめるような声。キモいよ。

姉 あんたのせいじゃないから。

ハルカ なにそれ。ほんとは私のせいって言いたいんでしょう？！

姉 違う。

ハルカ 私が自分愛の塊で、臆病で、傲慢だから、こんなんだからお母さんは、あの人は、逃げていったんでしょ……！？

父 そうじやない。

ハルカ じやあなに！

父 ……お前ら2人を、守ろうとしたんだよ。

父 はあ？

父 ハルカ お父さん、

父 ハルカ お母さんも、お前と同じだったんだ。

父 双極性障害。そう、診断された。今でいう双極症だ。

間。

父 遺伝することを、お母さんは心配してた。小さい頃から、お前はお母さんに似てた。  
ハルカ 待ってよ。別に、お母さん普通だつたじやん……？

父 トヨコさん、覚えてるか。

父 あの人気が、なに。

父 お母さんは、調子悪いとき入院してたんだ。出張だつて言つて。そのあいだ、トヨコさんがお前の面倒をみてくれてた。できるだけ、お前に心配させたくなかつたんだ。

父 でも、じゃあ、なんでいなくなつたの？

父 私に手を上げるのが、とめられなかつたから。

父 ハルカ は？

父 ハルカ ふいに、カツとなつて叩くの。あんたはまだ小つちやかつたから……。でも、私のせいだよ。ずっと、ぶたれても黙つてたから。

父 ハルカ 違う。お前らは悪くない。俺が、子育てに無関心すぎたんだ。お母さんの心細さに、気づいてやれなかつた。家族と離れる決断を、せざるを得なくなる前に、最初から、支え合えばよかつた。ぜんぶ俺のせいだ。だから、自分を責めなくていい。ハルカ、ごめん……！

父 土下座をする。

父 ハルカ 崩れ落ちる。姉、ブランケットを出し、ハルカを包み、抱きしめる。

父 ハルカ 照明、ハルカのみを照らす。姉と父は去つていく。横たわるハルカ。

父 ハルカ 鼻をすする音、小さく震える体、溢れてくる涙。

父 ハルカ ごめんなさい……、ごめん……私のぶんまで……！ お姉ちゃん……。ごめんなさい、お母さん、恨んでごめんなさい……。ごめん……、ごめんね、みんな……。

父 ハルカ よろよろと這い、立方体の中からカツターを取り出す。

父 右足を伸ばし、カツターの刃を出し、右太ももをゆっくりと、深く3回切る。

父 母と姉、演劇部のみんなの痛みを知るための、ハルカなりのすべだつた。

父 溶暗。転換。

父 明。舞台はとある教室。

植村先生のみ立ち、生徒たちは座つている。ハルカの姿はない。

植村 今日集まつてもらつたのは、紺野さんの状態について、みんなに説明するためです。

植村 いまは学校に来られる状態じやないそうで、私が代わりに伝えることになりました。

植村 紺野さんは、双極症といつて、気分の浮き沈みが大きくなるという、状態にあります。活発なときと、憂鬱なときとが、周期的にやつてくるそうです。通院して、お薬を飲んだりしながら、紺野さんは自分自身と闘っています。みんなに酷いことをしてしまったと、自分を責めています。みんな、嫌な思いをしたと思う。けど、できれば、責めないであげて欲しい。

父 先生は、知つてたんですか？

父 マユ うん……。

父 植村 アカリ なにそれ……。

父 植村 紺野さんは、また元気になつて帰つてくるから。そのとき、紺野さんがびつくりするような、素敵な作品をつくろう。観てもらおう。

父 全員

植村 ……、藤堂くん。

植村、あとを藤堂に任せ、去る。  
マユはスマホを操作し始める。

藤堂 言つてくれりやあな。  
アカリ ほんと、むかつく。

ミキ 先輩、

藤堂 ん？

ミキ 私、発声練習いってきます。

ミキ、駆け去る。

ナナコ 楠田 私も。  
楠田 僕も、行ってきます。

ナナコ、楠田、駆け去る。

藤堂、マユ、アカリ、三者三様の受け止め方。

マユ 「がんばれ。元気だして。薬に頼るな。いつ治る？」  
アカリ なに。

マユ 言つちやいけない言葉。

アカリ ……。

マユ アカリさ、新人公演終わつたら、ハルカんち行つてきて。

アカリ は？

マユ 連絡しとくから。別に喋んなくていいよ。

アカリ 何しに行くの。

マユ 貰いに。

アカリ 何を。

マユ、携帯電話をしまつて立ち、

マユ さ、稽古稽古！ 藤堂も行くよ。

マユ、去る。藤堂、落ち込んだ様子で去る。

アカリ ……むかつく。

アカリ、正面を向いて立ち上がり、遠くを見つめる。照明、アカリだけを照らす。  
舞台はハルカの家。

アカリはチャイムを押すことを躊躇っている。  
意を決してボタンを押す。照明・薄明り。姉、出てきて扉を開ける。

アカリ あ、こんばんは。

姉 アカリちゃん?

アカリ はい、はじめてして。

姉 ハルカの姉です。わざわざありがとね。

アカリ いえ。

姉 どうぞ。

アカリ お邪魔します。

姉 ハルカー。アカリちゃん來たよー。

返事はない。

姉 呼んでくるね。

アカリ あ、ぜんぜん無理しなくても、

姉 部屋行つてみる?

アカリ え、

姉 おいで。

アカリと姉、ハルカの部屋まで歩く。その間にハルカが入り、立方体に座る。  
姉とアカリ、部屋のドアの前に着く。

ハルカ。アカリちゃん、きてくれたよ。開けるよ。

ドアを開ける動作。ハルカは俯いている。

姉 ゆっくりしていって。

姉、去る。  
間。

アカリ 思ったより、キレイじやん。部屋。

ハルカ ……うん。

アカリ ……USB、もらひに來たよ。

ハルカ ……ぐちやぐちやだよ?わたしの、頭と同じで。

アカリ なに言つてんの。

ハルカ せつかく、みんなで話し合つてエチュードやつたのに、ぜんぜんうまく書けなかつた……。きっとみんなガッカリする。

アカリ 新人公演、うまくいつたよ。ミキちゃんも、クツスンもナナコンも、みんなアンタに言われたこと、改善しようと頑張つたんだよ。それで変われたんだよ。

ハルカ ゴメン。

アカリ 謝りなくていい。うちらも、2年生もさ、あんたに言われたこと悔しかつた。むかついた。もつと言ひ方があるだろうつて。……でも、あんたは間違つてない。なんにも、間違つたことは言つてないんだよ。だから、

アカリ、手を出す。

アカリ あんたの台本、私たちで仕上げる。

間。

ハルカ、ポケットからUSBを取り出し、立ち上がって、アカリに渡す。

ハルカ なくさないで。

アカリ 誰がなくすか。

2人、ふつと笑う。

アカリがウチにいるの、なんか不思議。

アカリ ここまで来るのに迷子になつたよ。

ハルカ ……ずっと、寂しかつた。広くて、深くて暗い海に、独りぼっちで取り残された。自分なんて死んでいいって、産まれてこなきやよかつたって、どん底まで滑り落ちて、落ちて、でも死なかつたのは、みんなに会えたから。居場所ができたから。でも、それさえ私は大事にできなかつた。小さなことにもイラついて、気持ちが膨れて爆発する。私の中の波が、周りの人を傷つける。

アカリ ……完璧なんてない。みんな、ちょっとずつ、波の形が違うだけ。……ハルカなら、乗りこなせるよ。

ハルカ ……がんばる。

アカリ ちゃんと飲むのよ、薬。

ハルカ うん。

アカリ これ、ちゃんと仕上げるから。観に来てよね。

ハルカ ありがとう。

アカリ ……こちらこそ。ありがとう。

照れくさそうに微笑む2人。

アカリ じゃあ、もう行くから。

ハルカ 気を付けてね。

アカリ はーい。

アカリ、去る。

ハルカ、歩き始める。

植村先生がやってきて、正面を向き、

紺野さんは2学期から登校してきました。時折部活にも顔を出しています。

けれど、真実を知った今、彼女の心の行き先は、もう決まっていたのでした。

右記の植村のセリフの間でハルカは舞台の階段を下り、客席の階段に立つて舞台を見つめる。

植村

植村 （ハルカが定位位置についていたのを確認して） 9月。演劇部は大会に臨みます。

照明・暗CO。すぐに開演ベルが鳴る。

アナウンス ただいまより、○○高等学校演劇部、紺野ハルカ作、『波上の放課後』を、上演いたします（○○の中は自校の名前もしくは架空のものを入れる）。

照明・明CI。  
東京へと旅立つハルカを駅で見送るため、部員6人が駆け込んでくる。

時間ギリギリでホームまで行く余裕がなく、ファンス越しに話す。

アカリ あつ、いた！

藤堂 どこ。

アカリ ほら！

マユ もう電車来るよ。

アカリ ハルカーっ！

客席に手を振る6人。ハルカ、手を振り返す。

ミキ せんぱーい！

ナナコ 応援してまーす！

楠田 お気を付けてー！

マユ 今度東京遊びに行くからーっ！

アカリ またみんなで舞台立とうね、演劇しようね！

マユ ほら、いいなよ。

藤堂 こ、紺野ーっ！ 好きだーっ！

合唱曲『明日へ』の前奏IN。それに被さってアナウンス。

アナウンス まもなく、4番線、列車が参ります。黄色い線の内側までお下がりください。

ハルカを含めた7人全員で歌う。

1番が終わると同時に発車のベルが鳴り響く。

6人、手を振つたり、見つめたり、去るハルカへそれぞれの見送り方をする。  
そのまま2番を歌う。

電車に乗ったハルカは、小さな声で歌を口ずさみながら、去っていく。  
幕。